

## [2] 全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：4 題	解答数：35 問	
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ	○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし	
出題形式の変化	○ あり	● なし	
新傾向の問題	○ あり	● なし	
<p>総評</p> <p>昨年と比較して易化した。出題の形式・分量については例年通り、全体的に誘導が丁寧に作問されていて取り組みやすい。一方で第 1 問[1]で前半の結果を利用しないと苦しい問題、第 4 問のように見た目が目新しい問題もあった。</p>			

## [3] 大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	[1]無理数の計算 1 次不等式 [2]論理	20 点	[1]無理数の計算については、工夫もできるが地道に計算しても大したことはない。後半の不等式では絶対値をはずすのに苦労したり、文字のまま計算せずに苦労した人もいるのではないか。 [2] 誘導が丁寧であり解きやすい。
第 2 問	2 次関数	25 点	問われている内容はやや多いが、すべて典型的な内容である。後半もグラフを描いて考えれば難しいことはない。
第 3 問	図形と計量（平面図形）	30 点	前半は典型的な内接四角形の問題であり、かつ誘導が丁寧であり落とせない。後半は条件にあった図を描くのに苦労するが、誘導にしたがって三角形の相似や円周角に注目していけばよい。
第 4 問	確率	25 点	確率を $p$ , $q$ のまま答えさせたり、 ${}_n C_r$ の計算をさせたりと目新しい部分もあるが、計算自体はワンパターンであるので解きやすい問題となっている。落ち着いて解けばよい。